

故國の不安を助長す

▲八幡製鐵所の騒動もそれ

●憂慮すべき思想の動搖

●然し同胞は此の難局を切抜けん

●國社會の動搖を傳へて在米同胞の心を寒からしめるものがある

●國社會に驚いた矢先、官能の八幡製鐵所が第三回の罷業中に

●東洋第一と號つてゐた其工場の大部分を破壊されたといふ報道

●是今後の事態を語るものではあるが、憂慮の面持

●最近没水した某氏は憂慮の面持にて語る「今日の故國の社會的不安は勿論世界的の流行の潮流に來る事は誰もが知る所であるが、憂慮の面持の如きが勞働階級の人々の水い眠りを自醒し

●日本△が一層動搖する民衆の意が權利主張の念に萌いて上つて来たのに原因する尤も治者階級の人々が此時の政策を移を認めて、この政治の進歩を示す其處に

●抑壓△され得た國民の意が權利主張の念に萌いて上つて来たのに原因する尤も治者階級の人々が此時の政策を移を認めて、この政治の進歩を示す其處に

●八幡△が一層動搖する民衆の意が權利主張の念に萌いて上つて来たのに原因する尤も治者階級の人々が此時の政策を移を認めて、この政治の進歩を示す其處に

●手荒△いざる様な手荒い方をしきだしきに至つては人民の選

●廻りの運動に至つたものではあるが、憂慮の面持の如きが勞働階級の人々の水い眠りを自醒し

●手荒△いざる様な手荒い方をしきだしきに至つては人民の選

●廻りの運動に至つたものではあるが、憂慮の面持の如きが勞働階級の人々の水い眠りを自醒し

貿易大會

▲五月に桑港で開催される正規の委員会は未定

●十五迄の四日間桑港にて開催される正規の委員会は未定

●五月中に日本政府が正規の委員会を未定

●十五迄の四日間桑港にて開催される正規の委員会は未定

●五月中に日本政府が正規の委員会を未定

第七回目の渡日外人の悲哀失望

●日本船の渦落

悲哀失望

●日本船の渦落

足型研究に東洋へ

●足型研究に東洋へ

足型研究に東洋へ

●足型研究に東洋へ

足型研究に東洋へ

●足型研究に東洋へ

足型研究に東洋へ

●足型研究に東洋へ

足型研究に東洋へ

●足型研究に東洋へ

足型研究に東洋へ

●足型研究に東洋へ

最新刊紹介

日本近信
（一月十三日）

月十三

日曜月

大正三年九月八日

(五) 第七百二十九拾六號

相方で佐野入院
二月五日以來製錬所内に漂ひた
も不穏の氣は算盤既に来る四月月を
通過したる報を聞き来る
より幾分増地の見込立ちたる構
内の警戒嚴重にして手も足も出
でざる状態にあるに依り次第に
接和され出勤職工の數も漸次復
舊し九日夜出勤者は二千九百六
十七人に達し就勤者三百七十七
人良好の成績を示し十日朝の出
勤者は職工一萬三百十七人夫大
五千九十三人にて千九百四十四
人の缺勤者あれど殆ど平日と異
ならず其後の状況も前日は各工
場の半が怠業の姿にありもしも漸
次作務し始め殆ど平日と異なる

▲ 警官憲兵疲勞

なものだマア「穩かに倒くよ
り外致方がない」と諦めをつける
てゐるものとがある罷工の裏面
に起つた悲劇は此の外にもまだ

あまり酷い一種の迫害である

らしめた多くの
▲労働者は これを知つて
日用品を賣つてくれない。とは

いて居た此體を見て勞友會本部では見殺しにすることは出来ないどうかして救助の道を講せなればこそ彼等を慰めて一應引取

「おや
飢の間に突き落されやうとして
ゐる私達に同情を寄せられてね
救ひを願ひます」と涙ぐんで

も寄らぬ生活の迫害に遭ひまして此の通り大勢の家族が途方に暮れて居りますどうか此の危い

りましても私達の生活に必要ない
にしようひん
日用品を賣つてくれません

組合から私達へ何一つ賣つて戴くことが出来なくなりましたからです又市中の何處の店へ登

せんそくは私達の主人が今度の罷工事件で拘引された爲め是れまで組合員として日用品を賣つて戴いてゐました製鐵所の購買

彼等の凡ては悲歎の涙に臉を
泣き腫して「私達も

所の豫審に附せられた労友會幹部員山田、吉村、堀井、安廣其他検舉せられた労働者の家族で

の女房園は今回の製鐵所同盟罷工に與し其の主謀者と認められた治安警察法違反者として八幡署の取扱を受け次いで小倉區裁判所に送致された。

八幡の勞友會本部へ滿面憂愁の
色を漾はして慌しく
▲救助方を 求めて來た此

製鐵所
にじょう ひんしょ
日用品
にゆうひん

日本近畿

(二)世人往往々激派を强大視するの感よりは、實に國民の意識が、従事するに至る。正らん。

▲兩論折衷か。要するに、兩論折衷か。要するに、兩論折衷か。

原總理大臣が誰んで貴族院の細評議の申立て松は君の爲に心配して、道庵先生へ相談に行かうと思ひました。そこへ女中が、「はい、左様でござります」

「はて、わたしのお客様、誰ですか？」

「はて、ございました」と云ふと近頃花電燈が明るく定刻には德川屋長が先づ見ゆる柳原伯之に次ぎます。

お松は自分を名差して来る客機です。

いふのを意外に思ひました。

「あの、神田の佐久間町からお出でにならました。けれども直に通し申して下さい」と云ひきれないで、ちよつと返事に困りました。

お松は佐久間町と聞いて、思ひました。けれども直に通し申して下さい」と云ひきれないで、ちよつと返事に困りました。

花電燈が明るく定刻には徳川屋長が先づ見ゆる柳原伯之に次ぎます。

伯母さんなどは、あなた様の御親類の方ださうでござります。伯母さんなどは、あなた様の御親類の方ださうでござります。

